

情報公開文書

帝京大学スポーツ医科学センターにおける『大学女性選手における減量経験、エネルギー不足が血中ホルモン濃度、腸内細菌叢に与える影響』、へご協力を頂いた皆さまへ

表題の研究課題「帝倫 21-112-4 号：大学女性選手における減量経験、エネルギー不足が血中ホルモン濃度、腸内細菌叢に与える影響」につきまして、過去に測定いただいた試料・情報のうち身体特性、生活習慣、血液データ、身体組成に関するデータを、下記の研究課題にて使用させていただきます。その概要を記載いたしますので、ご質問・ご相談等がございます場合、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

ご自身が測定された情報をこの研究課題に対して利用・提供してほしくないと思われました場合にも、問い合わせ先までお申し出ください。提供者ご本人あるいはその代理人からお申し出いただいた際は、その情報の利用を停止します。ご質問・ご相談等がございます場合、下記のお問い合わせ先までお問い合わせください。

1. 研究課題名

女性アスリートを対象とした体組成評価法の差異と補正モデルの構築に関する研究

2. 研究責任者

中潟崇 医薬基盤・健康・栄養研究所 身体活動研究センター 身体活動ガイドライン研究室 研究員

3. 共同研究機関の研究責任者

市川麻美子 帝京大学 スポーツ医科学センター 助教

4. 研究の対象および情報、利用方法

対象となる方は、下記の研究課題に参加され、測定を受けた方です。

- 帝倫 21-112-4 号：大学女性選手における減量経験、エネルギー不足が血中ホルモン濃度、腸内細菌叢に与える影響

利用させていただくデータは次の通りです。

既往歴や服薬状況、質問紙法による生活習慣（食習慣、食行動、睡眠、身体活動、運動習慣、月経状況など）、身体組成（二重エネルギーX線吸収測定法（以下 DXA 法）、インピーダンス法で評価した骨格筋量、脂肪量、骨密度など）、二重標識水法により算出されたエネルギー消費量や体水分量（分析値）などのデータ。

なお、身体組成データのうち、DXA 法とインピーダンス法による測定値は、データの比較可能性を確保するため、同日または数日以内に取得されたものを利用します。

5. 本研究課題の目的

本研究課題の目的は、帝京大学スポーツ医科学センターにおいて実施された上記の研究で収集した

食事や運動を含む生活習慣、身体組成などを利用し、身体組成評価法の差異を明らかにし、補正モデルを構築することです。

正確な身体組成、特に体脂肪量や筋肉量を把握することは、個人の健康管理やスポーツにおけるパフォーマンス向上において不可欠です。現在、医療や研究の現場においては、主に DXA 法が基準法として用いられていますが、大型で高価な専門機器、医療従事者が必要であり、測定に手間がかかるため、一般の利用が難しいという側面があります。

一方で、TANITA 社や InBody 社などの機器に代表されるインピーダンス法は、安価で小型、測定が数十秒で完了するため、スポーツジムや家庭を含む多くの現場で広く使用されています。しかし、このインピーダンス法は、機種やメーカー、そして測定時のコンディション、条件によって結果にバラつきが生じやすく、基準法の一つである DXA 法との間に系統的な差（ずれ）が指摘されています。

簡便な機器の結果に生じるこの差異を明確にし、その精度を高めることは、研究やスポーツ現場において重要な課題です。そこで本研究では、基準法の一つである DXA 法に基づいた身体組成評価とインピーダンス法機器による測定値を詳細に比較し、機種間および手法間に生じる差異の特徴とその要因を明らかにします。さらに、これらの知見に基づき基準法を用いた補正モデル（差、ずれを調整する仕組み）を構築することにより、簡便な測定機器を用いた場合でも、より高精度な身体組成評価を実現することを目指します。

5. 研究の実施期間

承認日～2030 年 3 月 31 日

6. 個人情報の取り扱い

帝京大学スポーツ医科学センターで個人情報を除いた後に提供されますので、医薬基盤・健康・栄養研究所において皆さまの個人情報を扱うことはありません。また、帝京大学から受領したデータは、医薬基盤・健康・栄養研究所が帝京大学においても個人情報を辿ることができないように、追加で匿名化を行います。

7. お問い合わせ先

研究代表者：医薬基盤・健康・栄養研究所 身体活動研究センター 中潟崇

E-mail nakagata@nibn.go.jp

〒566-0002 大阪府摂津市千里丘新町 3 番 17 号 健都イノベーションパーク NK ビル

電話 06-6384-1120（代表）内線 2539